

論文

COVID-19 感染症による運動・スポーツへの影響に関する実態調査
～大阪府茨木市中生サッカークラブの影響に着目して～

松 山 博 明
追手門学院大学

中 野 大 輔
早稲田大学摂陵高等学校

武 藤 克 宏
ギラヴァンツ北九州

田 中 奏 一
鹿屋体育大学大学院

植 松 梓
追手門学院大学

千 葉 英 史
追手門学院大学

辰 本 頼 弘
追手門学院大学

馬 込 卓 弥
追手門学院大学
大阪大学

Survey on the Effects of COVID-19 Infection on Exercise and Sports
～ Focusing on the Effects on a Junior High School Soccer Club in Ibaraki City,
Osaka Prefecture, Japan ～

Hiroaki MATSUYAMA
Otomon Gakuin University

Daisuke NAKANO
Waseda University Setsuryo Senior
High School

Katsuhiro MUTO
Giravanz Kitakyushu
Football Club

Soichi TANAKA
National Institute of Fitness
and Sports in Kanoya

Azusa UEMATSU
Otomon Gakuin University

Eiji CHIBA
Otomon Gakuin University

Yoshihiro TATSUMOTO
Otomon Gakuin University

Takuya MAGOME
Otomon Gakuin University
Osaka University

Abstract

The purpose of this study was to understand the actual situation caused by COVID-19 infection in a junior high school soccer club in Ibaraki City, Osaka Prefecture, and to propose appropriate measures when promoting the development and strengthening of the club. The results of the study were as follows 1. The most important things to keep in mind when exercising and playing sports in the Corona Disaster The results were similar to those of the national survey with regard to “avoiding exercising or playing sports in places where the three close conditions (enclosed, dense, and close together) are present” and “wearing a mask and paying attention to cough etiquette while exercising or playing sports. However, there was a difference from the national survey in “refraining from exercise and sports activities when feeling even slightly unwell. This may be due to the possibility of person-to-person transmission by droplet

or other means, especially among players belonging to clubs where they are likely to be in groups. 2. Frequency of exercising, playing sports, and watching games The results of the question “How often do you watch games on TV or the Internet since you became a Corona disaster” were similar to those of the national survey. It is thought that people have become more likely to watch games on TV or the Internet because of the coronavirus and the fear of being infected by droplet infection from “watching from the bleachers” and “cheering. 3. Influence of Exercise and Sports Facilities The results were similar to those of the national survey with regard to the following: “I could not use the open space or park in my neighborhood that I usually use,” “The competition or event that I planned to attend was postponed or canceled,” “I could not use the open space or park in my neighborhood that I usually use,” and “I exercise or play sports at home or near my home more often. The results were similar to those of the national survey. With the Corona disaster, it can be assumed that people stopped or shifted to exercises that could be done around their homes due to the limited availability of facilities, which led to an increase in exercising and playing sports in and around their homes. In light of the above, COVID-19 has the potential to change the surrounding environment in the short-, medium-, and long-term. Under these circumstances, understanding and facing COVID-19 is the challenge for the future. The experience of overcoming these critical events in their lives will give them the confidence and expectation to succeed in the future when they encounter other events in their lives.

キーワード：

Key Word：Ibaraki City, Developmental Age, Soccer, Club

1. 緒言

2020年初めから新型コロナウイルス感染症によりスポーツ界に大きな影響があった。大規模なスポーツ大会に伴って起こる感染症は、選手だけでなく多数の観客、大会関係者にも広がり、オリンピックなどの国際的なものでは、外国からの稀な感染症にさらされる危険も出てくる。特に競技スポーツであれば、大会などへの参加があるため普段接さないたくさんの人にロッカールームなどで密に接する機会がある。また、寮生活や合宿などの集団生活がしばしば行われるため、これも密な接触の可能性はある。県外や海外での大会参加などで普段接さない人や環境に接し、意外な感染症をもらう可能性もあり得る。また、大きな大会や野球場などでは選手のみならず観客、スタッフが同様に同じ空間を分け合う。このような変化は感染症のリスクにつながる可能性がある（岡山, 2021）。

この状況を鑑み、「レジャー白書 2020年」（日本生産性本部, 2020）は、レジャー施設においても、新型コロナウイルスの感染を予防する「新しい生活様式」に対応する必要がある、多くのイベントが自粛される中、ライブ動画配

信など現地に行かなくても楽しめる多様な楽しみ方が模索されていることが報告されている。藤田ら（2021）は、プロスポーツ界全体としても、新型コロナウイルス（以下：COVID-19とする）感染拡大防止のため、観客数や応援スタイルは従来とは大きく変化しており、スポーツ界において新たなスポーツ観戦スタイルが求められていると述べている。また、山下（2020）によると、COVID-19への対策を想定した密集、密接、密閉を回避する基本的な生活様式が盛り込まれた「新しい生活様式」が提唱されたことを受け、アスリート育成・強化の推進を図る際にもそれらを踏まえる必要に迫られていると述べている。そのためにも、中核的な拠点での集合型トレーニングを活動の基軸に捉え、育成から強化に至る全てのプロセスを網羅しようとする仕組みから脱却できるアイデアも必要となる。また、選手同士の濃厚接触を減らす一時的なルールの変更案を公表している国際競技連盟があるように、COVID-19感染症への感染リスクの軽減策を考慮したルール改正についても注視が必要である。

これまでの先行研究では、佐々木（2021）によるCOVID-19感染拡大の中で、全国の大学での対応を

UNIVAS のデータから明らかにすること、そして城西大学でのアクションによってコロナ禍を乗り越えてきたのかを整理し課題を抽出、詳査することを目的とした研究がある。その結果、大学スポーツが受けた影響は計り知れなく、城西大学も同様に大きな影響を受けた。しかしながら、他大学と比較して部活動停止期間を最小限に抑えることができた等、適切な対応ができたこともあり、主要部活動の好成績につながった。課題としては、他校との対外試合時対応にあり、今後の感染予防徹底の継続が重要であることが明らかにされている。また、山田ら（2022）によるコロナ禍における高校運動部員の精神健康度の実態把握及び COVID-19 拡大に起因するストレス認知度、ストレス反応、ライフスキル（life skills：以下、LS とする）の属性による違いの検証、高校運動部員の COVID-19 拡大に起因するストレス認知度とストレス反応との関連及び LS の調整効果を明らかにする研究がある。その結果、運動部員の精神健康度は COVID-19 拡大状況下において悪化しており、ストレス認知度及びストレス反応は男性より女性、下級生より上級生、競技レベル低群より高群の方が有意に高かった。ライフスキルは下級生より上級生、競技レベル低群より高群の方が有意に高かった。また、ストレス認知度とストレス反応には有意な正の関連が見られ、ライフスキルはその関連を有意に緩和していた。COVID-19 拡大状況下でのストレス対処におけるライフスキルの有用性が示唆された。上野ら（2022）によるコロナ禍における教育課程変更に対する意識や保健体育科授業における学びの内実を中学生の視点から明らかにすることを目的とした。さらに、今後の保健体育科授業の在り方に対する課題を検討することにした研究がある。その結果、①生徒は仲間との関わりから生まれる気づきや再考を通して互いに高めあうことの重要性を認めていること、②授業や行事の楽しさと必要性を理解し、自発的に取り組みたいと考えている。また、保健体育科授業で目標とした学びもおおむね達成されていることが明らかになった。これまで、コロナ禍における大学スポーツの現状や高校生によるストレス反応、そして教育課程変更に対する意識や、保健体育科授業における学びの内実を中学生の視点から明らかにすることを目的とした調査は行われてきた。しかしながら、育成年代におけるコロナ禍における調査は、あまり事例が少ない。それに加えて、スポーツを行っている生徒の現状を把握している調

査は、行われているものの、まだ実情がつかめていない。特にこの年代は、発育発達に大きく影響するため実態を把握して、適切な対応が急務である。そこで、本研究では、大阪府茨木市中学生サッカークラブを対象に COVID-19 感染症の影響による実態を把握して、育成・強化の推進を図る際の適切な対応策を提案することが目的である。

2. 研究方法

2.1. 調査内容

COVID-19 による運動・スポーツへの影響に関する全国調査（公益財団法人 笹川スポーツ財団、online）を参考にアンケート調査を実施した。

2.2. 調査対象

大阪府茨木市中学生サッカークラブ 44 名（12 ± 14 歳・平均 13.2 歳）を対象に実施した。

2.3. 調査項目

調査項目は、以下の合計 14 項目とした。

①コロナ禍で運動・スポーツをする際に最も気を付けていること（6 項目）

1. 三つの密（密閉・密集・密接）の条件が揃う場所で運動・スポーツを実施しないようにする。2. 筋力トレーニングや自宅で行える運動・スポーツを中心に実施する。3. マスクの着用や咳エチケットに配慮しながら運動・スポーツを実施する。4. 人と人との間隔を意識して運動・スポーツを実施する。5. 少しでも体調に不調を感じたら運動・スポーツの実施は控える。6. 公園やスポーツ施設は人が少ない時間帯に利用する。

②運動・スポーツ実施・観戦頻度（3 項目）

1. コロナ禍で練習時間。2. あなたは、コロナ禍による試合をテレビやインターネットで観戦状況。3. あなたは、コロナ禍になってからどれくらい試合をスタジアムで観戦しますか。

③運動・スポーツ施設による影響（5 項目）

1. 普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設の営業状況。2. 休業していた普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設が再開状況。3. 参加する予定であった大会やイベントが延期・中止状況。4. 普段利用している近隣の広場や公園が使用の有無。5. 自宅や自宅の周辺で運動・スポーツ実施状況。

3. 結果

3.1. コロナ禍で運動・スポーツをする際に最も気を付けていること

3.1.1. 三つの密（密閉・密集・密接）の条件が揃う場所で運動・スポーツを実施状況

「三つの密（密閉・密集・密接）の条件が揃う場所で運動・スポーツを実施しないようにする」については、「いつもよくしている」20.5%、「よくしている」52.3%、「どちらでもない」22.7%、「あまりしない」2.3%、「まったくしない」2.3%であった（図1）。

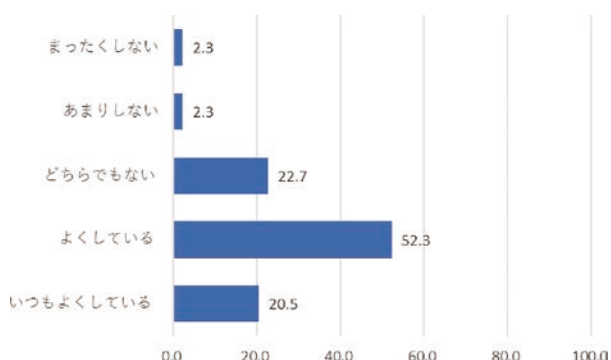


図1. 三密（密閉・密集・密接）の条件が揃う場所で運動・スポーツ実施状況

3.1.2. 筋力トレーニングや自宅で行える運動・スポーツを中心に実施状況

「筋力トレーニングや自宅で行える運動・スポーツを中心に実施する」については、「いつもよくしている」9.0%、「よくしている」34.1%、「どちらでもない」29.5%、「あまりしない」25.0%、「まったくしない」2.3%であった（図2）。

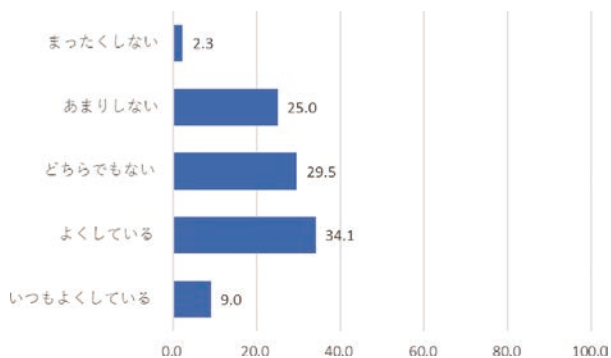


図2. 筋力トレーニングや自宅で行える運動・スポーツ中心の実施状況

3.1.3. マスクの着用や咳エチケットに配慮しながら運動・スポーツを実施状況

「マスクの着用や咳エチケットに配慮しながら運動・スポーツを実施する」については、「いつもよくしている」25.0%、「よくしている」36.4%、「どちらでもない」15.9%、「あまりしない」18.2%、「まったくしない」4.5%であった（図3）。

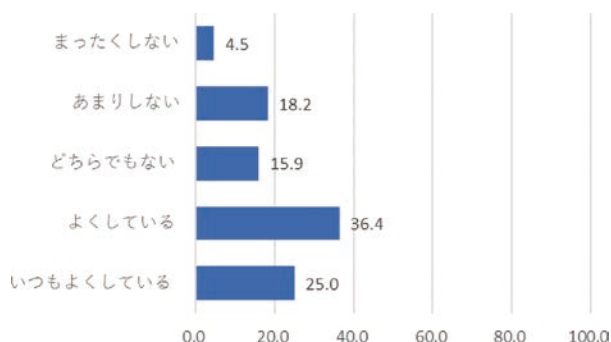


図3. マスクの着用や咳エチケットに配慮しながら運動・スポーツ実施状況

3.1.4. 人と人との間隔を意識して運動・スポーツ実施状況

「人と人との間隔を意識して運動・スポーツ実施する」については、「いつもよくしている」9.0%、「よくしている」29.5%、「どちらでもない」22.7%、「あまりしない」27.3%、「まったくしない」11.4%であった（図4）。

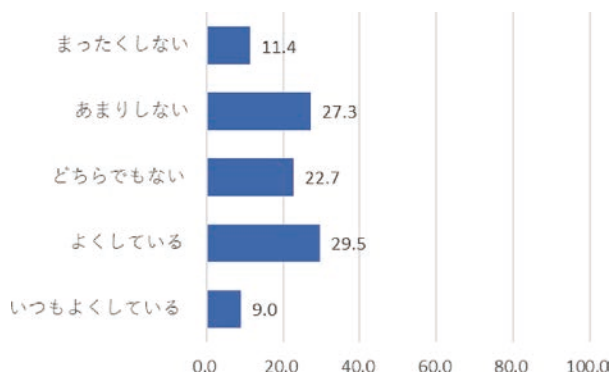


図4. 人と人との間隔を意識して運動・スポーツ実施状況

3. 1. 5. 少しでも体調に不調を感じた時の運動・スポーツ実施状況

「少しでも体調に不調を感じた時の運動・スポーツ実施は控える」については、「いつもよくしている」22.7%、「よくしている」31.8%、「どちらでもない」25.0%、「あまりしない」20.5%、「まったくしない」0.0%であった（図5）。

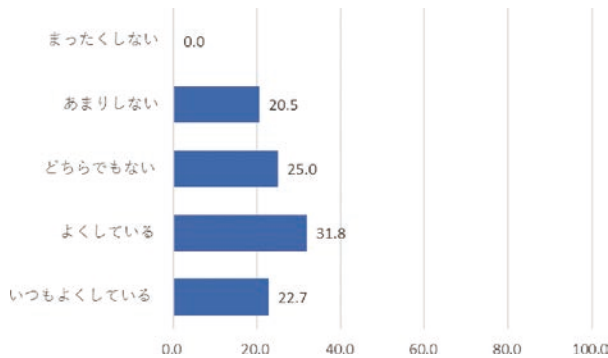


図5. 少しでも体調に不調を感じた時の運動・スポーツ実施状況

3. 1. 6. 公園やスポーツ施設は人が少ない時間帯の利用状況

「公園やスポーツ施設は人が少ない時間帯の利用する」については、「いつもよくしている」6.8%、「よくしている」29.5%、「どちらでもない」47.7%、「あまりしない」6.8%、「まったくしない」9.0%であった（図6）。

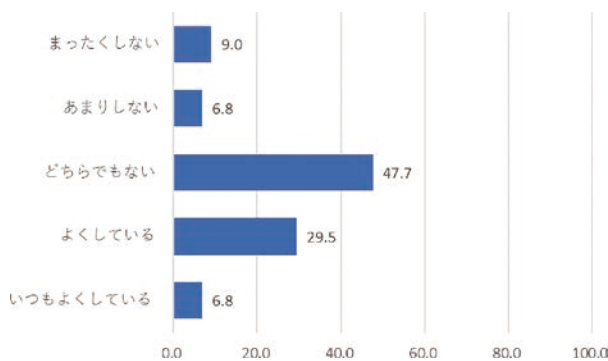


図6. 公園やスポーツ施設は人が少ない時間帯の利用状況

3. 2. 運動・スポーツ実施・観戦頻度

3. 2. 1. コロナ禍で練習時間が減った

「コロナ禍で練習時間が減った」ことについては、「と

てもそう思う」9.0%、「そう思う」31.8%、「どちらでもない」25.0%、「あまり思わない」18.2%、「思わない」15.9%であった（図7）。

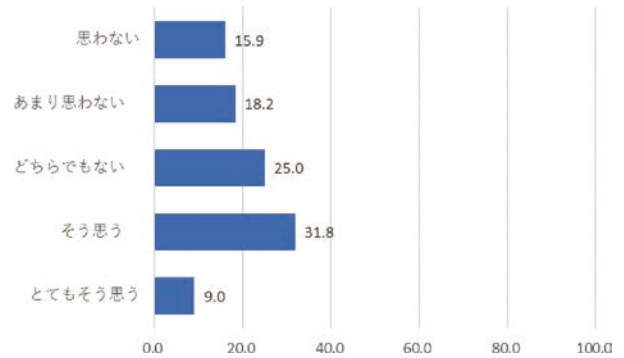


図7. コロナ禍で練習時間の減少

3. 2. 2. コロナ禍での試合をテレビやインターネットで観戦率

「あなたは、コロナ禍になってからどれくらい試合をテレビやインターネットで観戦しますか」については、「よく観戦する」31.8%、「観戦する」34.1%、「どちらでもない」6.8%、「あまり観戦しない」20.5%、「観戦しない」4.5%であった（図8）。

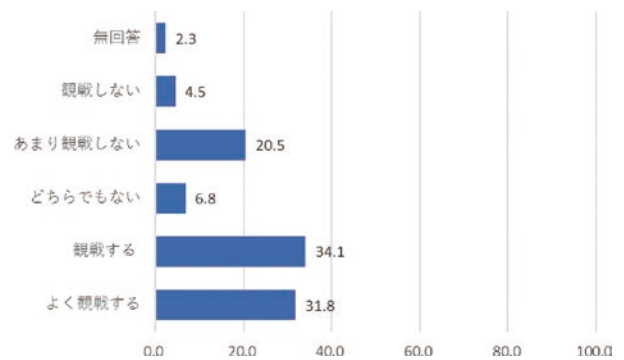


図8. コロナ禍での試合をテレビやインターネットで観戦率

3. 2. 3. コロナ禍での試合をスタジアム観戦率

「あなたは、コロナ禍になってからどれくらい試合をスタジアムで観戦しますか」については、「よく観戦する」9.0%、「観戦する」20.5%、「どちらでもない」22.7%、「あまり観戦しない」29.5%、「観戦しない」18.2%であった（図9）。

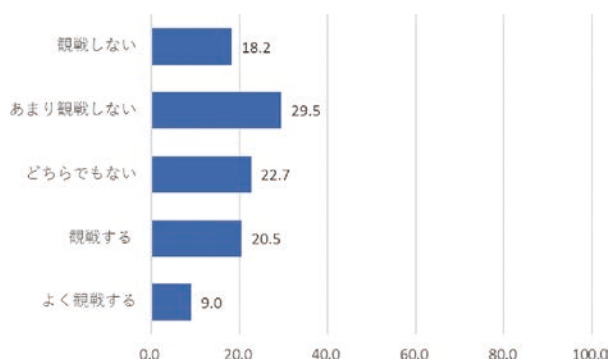


図9. コロナ禍での試合をスタジアム観戦率

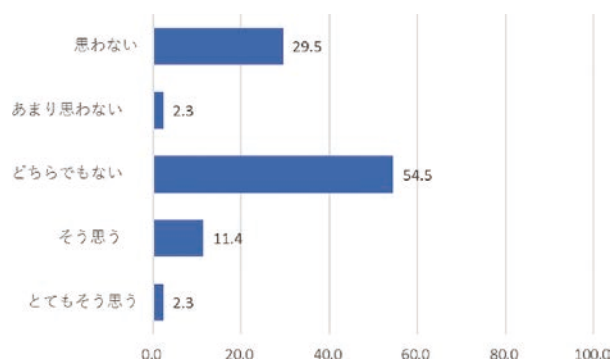


図11. 休業していた普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設の再開

3.3. 運動・スポーツ施設による影響

3.3.1. 普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設が休業（または閉鎖した）

「普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設が休業した（または閉鎖した）」については、「とてもそう思う」2.3%、「そう思う」11.4%、「どちらでもない」43.2%、「あまり思わない」11.4%、「思わない」31.8%であった（図10）。

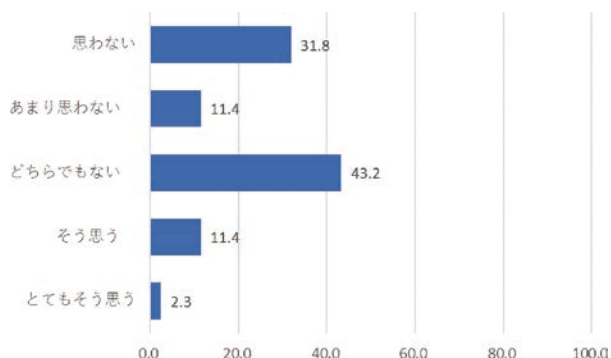


図10. 普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設の休業（閉鎖した）

3.3.2. 休業していた普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設の再開

「休業していた普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設の再開した」については、「とてもそう思う」2.3%、「そう思う」11.4%、「どちらでもない」54.5%、「あまり思わない」2.3%、「思わない」29.5%であった（図11）。

3.3.3. 参加する予定であった大会やイベントが延期・中止

「参加する予定であった大会やイベントが延期・中止になった」については、「とてもそう思う」18.2%、「そう思う」38.6%、「どちらでもない」22.7%、「あまり思わない」4.5%、「思わない」15.9%であった（図12）。

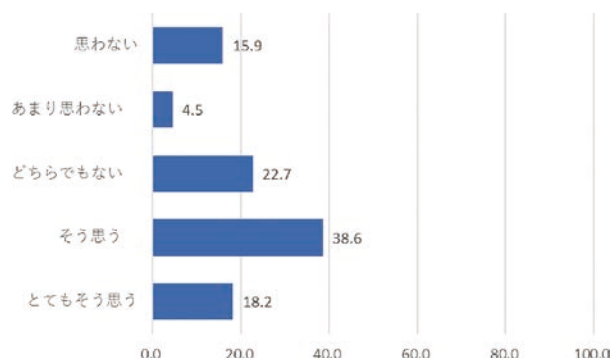


図12. 参加する予定であった大会やイベントの延期・中止

3.3.4. 普段利用している近隣の広場や公園が使用できない内容

「普段利用している近隣の広場や公園が使用できないことがあった」については、「とてもそう思う」2.3%、「そう思う」13.6%、「どちらでもない」18.2%、「あまり思わない」13.6%、「思わない」52.3%であった（図13）。

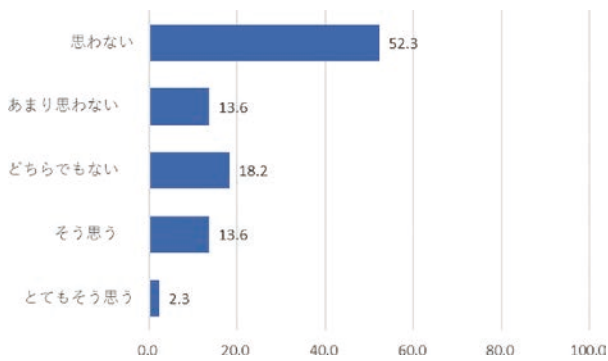


図13. 普段利用している近隣の広場や公園が使用できない内容

3.3.5. 自宅や自宅の周辺で運動・スポーツをすることの増加状況

「自宅や自宅の周辺で運動・スポーツをすることが増えた」については、「とてもそう思う」15.9%、「そう思う」34.1%、「どちらでもない」34.1%、「あまり思わない」13.6%、「思わない」2.3%であった（図14）。

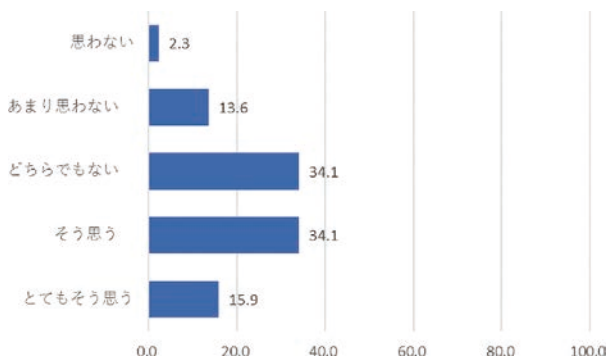


図14. 自宅や自宅の周辺で運動・スポーツをすることの増加状況

4. 考察

考察に関しては、「いつもよくしている」、「よくしている」もしくは、「とてもそう思う」、「そう思う」、また、「よく観戦する」、「観戦する」の回答が50%以上として「肯定的」とした。一方で、「あまりしない」、「まったくしない」もしくは、「あまり思わない」、「思わない」また、「あまり観戦しない」、「観戦しない」の回答が50%以上として「否定的」とした。

これらの内容を基に考察を行うこととした。

4.1. コロナ禍で運動・スポーツをする際に最も気を付けていること

「三つの密（密閉・密集・密接）の条件が揃う場所で運動・スポーツを実施しないようにする」、「マスクの着用や咳エチケットに配慮しながら運動・スポーツを実施する」、「少しでも体調に不調を感じた時の運動・スポーツ実施は控える」については、「肯定的」であった。

COVID-19による運動・スポーツへの影響に関する全国調査（2021）によると2月調査では、「三つの密（密閉・密集・密接）の条件が揃う場所で運動・スポーツを実施しないようにする」64.5%が最も高く、「マスクの着用や咳エチケットに配慮しながら運動・スポーツを実施する」49.8%、「人と人との間隔を意識して運動・スポーツを実施する」45.4%と続いた。10月調査と比較すると、両調査とも最多で選択された「三つの密（密閉・密集・密接）の条件が揃う場所で運動・スポーツを実施しないようにする」は、16.5ポイント増（48.0%→64.5%）であったほか、「マスクの着用や咳エチケットに配慮しながら運動・スポーツを実施する」は14.4ポイント増（35.4%→49.8%）であったとされている（公益財団法人 笹川スポーツ財団, 2021）。このことから、「三つの密（密閉・密集・密接）の条件が揃う場所で運動・スポーツを実施しないようにする」、「マスクの着用や咳エチケットに配慮しながら運動・スポーツを実施する」に関して、大阪府茨木市中学生サッカークラブを対象に実施した調査と全国調査と同様の結果であった。しかしながら、「少しでも体調に不調を感じた時の運動・スポーツ実施は控える」に関しては、全国調査とも差異が見られた（公益財団法人 笹川スポーツ財団, 2021）。これは、特にサッカーの場合、大会や遠征等で、集団行動が多く、クラスターを発生する可能性が高いと思われる。そのために、一般人とは違い、体調の異変が感じられた時点ですぐに運動・スポーツ実施は控えるようになったのではないかと推測出来る。久木ら（2020）によると、飛沫等により人から人へ感染する可能性があることから、人の集合、移動、距離を制限することが感染防止対策の基本とされた。これら三つの要件が重なるスポーツ活動やイベントは、クラスター発生の可能性が高いことから、世界的にイベントの延期・中止や施設の一部あるいは全面閉鎖を余儀なくされた。また、ハイパフォーマンスアスリートに与える身体的・精神的な影響を考慮し、スポーツ活動再開時には、感染防止対策だけ

でなく適切なりコンディショニングによる傷害リスクの軽減などを含むガイドラインの策定が必要であったと述べている。したがって、スポーツにおけるサッカーにおいて、集団で行動する可能性高いクラブに所属している選手は特に飛沫等により人から人へ感染する可能性があることから、人の集合、移動、距離を制限するため、選手の中で、少しでも体調に不調を感じた時の運動・スポーツ実施は控える要因が多くなったと考えられる。

4.2. 運動・スポーツ実施・観戦頻度

「あなたは、コロナ禍になってからどれくらい試合をテレビやインターネットで観戦しますか」については、「よく観戦する」、「観戦する」回答が「肯定的」であった。COVID-19による運動・スポーツへの影響に関する全国調査（2021）によると、COVID-19感染拡大後の2020年2月～2021年1月のテレビやインターネットでの全体の観戦率は、2019年2月～2020年1月41.6%（100－「この期間にスポーツ観戦はしていない」58.4%）、2020年2月～2021年1月44.8%と3.2ポイント増加した。また、何らかの種目を直接観戦した人の割合は2019年2月～2020年1月が19.5%（100－「この期間にスポーツ観戦はしていない」80.5%）、2020年2月～2021年1月が10.9%と8.6ポイント減少していることが分かった（公益財団法人 笹川スポーツ財団, 2021）。このことから、「あなたは、コロナ禍になってからどれくらい試合をテレビやインターネットで観戦しますか」に関しては、大阪府茨木市中学生サッカークラブを対象に実施した調査と全国調査と同様の結果であった。ネオマーケティングによる新型コロナウイルス感染症の流行後、あなたが国内のプロスポーツを現地で生観戦するにあたり、「不安に感じていることをすべて教えてください」の問いに対して、「観客席での観戦」が61.3%、次いで「声援による飛沫感染」が50.4%と続いた。普段であれば現地会場での生観戦ならではの、活気や臨場感といったものを生み出す要素によって、新型コロナウイルスに感染する懸念を感じてしまうと報告されている（ネオマーケティング, online）。したがって、コロナ禍になって、「観客席での観戦」や「声援による飛沫感染」による不安を感じることから、試合をテレビやインターネットで観戦することが多くなったと考えられる。

4.3. 運動・スポーツ施設による影響

「参加する予定であった大会やイベントが延期・中止になった」、「肯定的」であった。「普段利用している近隣の広場や公園が使用できないことがあった」については、「否定的」であった。「自宅や自宅の周辺で運動・スポーツをすることが増えた」については、「肯定的」であった。

COVID-19による運動・スポーツへの影響に関する全国調査（2021）によると、COVID-19感染拡大の影響により変化した運動・スポーツの環境について、「参加する予定であった大会やイベントが延期・中止になった」は6月調査（15.5%）からは減少したものの、10月調査（8.1%）から2月調査（8.5%）にかけて変化はみられず、引き続きCOVID-19の影響を受けていると推察できる。次に「普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設が休業している（または閉鎖した）」は6月調査の結果から11.6ポイント減少しており（6月調査17.9%→10月調査8.5%→2月調査6.3%）、スポーツクラブやスポーツ施設など運動・スポーツ実施施設に関する環境の変化は小さくなっている。国内におけるCOVID-19の感染拡大は続いているものの、運動・スポーツ実施環境においては、施設運営者や個人による感染症対策により、感染拡大が続く中でも運動・スポーツを実施できる環境が整えられてきたと考えられる（公益財団法人 笹川スポーツ財団, 2021）。このことから、「参加する予定であった大会やイベントが延期・中止になった」、「普段利用している近隣の広場や公園が使用できないことがあった」に関しては、大阪府茨木市中学生サッカークラブを対象に実施した調査と全国調査と同様の結果であった。また、「自宅や自宅の周辺で運動・スポーツをすることが増えた」に関しては、COVID-19による運動・スポーツへの影響に関する全国調査（2021）によると、「自宅や自宅の周辺で運動・スポーツを行うこと」は増えた人（12.4%）が減った人（6.9%）を上回っている。スポーツクラブやスポーツ施設が休業となった影響もあり、自宅やその周辺で運動・スポーツを実施する人が増えたと考えられる（公益財団法人 笹川スポーツ財団, 2021）。このことから、「自宅や自宅の周辺で運動・スポーツをすることが増えた」に関しては、大阪府茨木市中学生サッカークラブを対象に実施した調査と全国調査と同様の結果であった。意識調査 From プラネットによる「あなたが、運動やスポーツをどこですることが多いですか」の

問いに対して、「自宅」が、63.2%と圧倒的1位の場所となっている。「屋内の公共施設・商業施設」は16.7%、上位3項目から低い値となっている。コロナ流行前にはこういった施設を利用していたが、施設の利用制限により、やめていたり、自宅周辺でできる運動へとシフトしていると報告されている（意識調査 From プラネット, online）。これは、特にサッカーの場合、「参加する予定であった大会やイベントが延期・中止になった」ために、トレーニングの場を模索しながら、自宅周辺でも運動・スポーツをすることが多かったと推測出来る。したがって、コロナ禍になって、施設の利用制限により、やめていたり、自宅周辺でできる運動へとシフトしたことによって、自宅や自宅の周辺で運動・スポーツをすることが増えたと考えられる。

5. まとめ

本研究では、大阪府茨木市中学生サッカークラブを対象に COVID-19 感染症の影響による実態を把握して、育成・強化の推進を図る際の適切な対応策を提案することが目的である。

その結果、以下の内容になった。

5.1. コロナ禍で運動・スポーツをする際に最も気を付けていること

「三つの密（密閉・密集・密接）の条件が揃う場所で運動・スポーツを実施しないようにする」、「マスクの着用や咳エチケットに配慮しながら運動・スポーツを実施する」に関して、全国調査と同様の結果であった。しかしながら、「少しでも体調に不調を感じた時の運動・スポーツ実施は控える」に関しては、全国調査とも差異が見られた。スポーツにおけるサッカーにおいて、集団で行動する可能性高いクラブに所属している選手は特に飛沫等により人から人へ感染する可能性があることから、人の集合、移動、距離を制限するため、選手の中で、少しでも体調に不調を感じた時の運動・スポーツ実施は控える要因が多くなったと考えられる。

5.2. 運動・スポーツ実施・観戦頻度

「あなたは、コロナ禍になってからどれくらい試合をテレビやインターネットで観戦しますか」に関しては、全国調査と同様の結果であった。国内のプロスポーツを現地で生観戦するにあたり、普段であれば現地会場で

の、活気や臨場感といったものを生み出す要素によって、新型コロナウイルスに感染する懸念を感じてしまう。コロナ禍になって、「観客席での観戦」や「声援による飛沫感染」による不安を感じることから、試合をテレビやインターネットで観戦することが多くなったと考えられる。

5.3. 運動・スポーツ施設による影響

「普段利用している近隣の広場や公園が使用できないことがあった」「参加する予定であった大会やイベントが延期・中止になった」、「普段利用している近隣の広場や公園が使用できないことがあった」に関しては、全国調査と同様の結果であった。また、「自宅や自宅の周辺で運動・スポーツをすることが増えた」に関しては、全国調査と同様の結果であった。これは、特にサッカーの場合、トレーニングの場を模索しながら、自宅周辺でも運動・スポーツをすることが多かったと推測出来る。コロナ禍になって、施設の利用制限により、やめていたり、自宅周辺でできる運動へとシフトしたことによって、自宅や自宅の周辺で運動・スポーツをすることが増えたと考えられる。

以上のことから、COVID-19 は大阪府茨木市中学生サッカークラブを取り巻く環境を短期的及び中長期的に変化させる可能性がある。こうした状況の中で、COVID-19 を理解し、向き合っていくことこそが今後の課題でもある。こうした、人生における重大な出来事を乗り越えた経験によって、今後の人生において別の出来事に遭遇した際に成功する自信や期待を持つことができると考えられる。

引用参考文献

- 藤田帆乃華, 佐原里加子, 相馬隆景, 後藤大輝, 大野晃, 二宮浩彰 (2021) コロナ禍におけるプロスポーツとオリンピックの観戦スタイル：スポーツ観戦に関連する新聞記事のテキストマイニング. 同志社スポーツ健康科学, Vol.13, 19-28.
- 公益財団法人 笹川スポーツ財団：新型コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響に関する全国調査 (2021)
- https://www.ssf.or.jp/thinktank/policy/covid19_03_202102.html (2022 年 12 月 11 日参照)
- 久木留毅, 野口順子 (2020) スポーツ界におけるエビデ

ンス・ペースト・ポリシー・メイキングの構築に向けて：COVID-19におけるWHOのスポーツ界への影響力から、ハイパフォーマンススポーツジャーナル, Vol.6, 174-188.

ネオマーケティング. <https://neo-m.jp/feature/> (2023年1月6日参照)

日本生産性本部 (2020) 特集：2020年コロナ禍とレジャー産業. レジャー白書 2020, pp3-9.

岡山昭彦 (2021) 新型コロナ時代におけるスポーツ関連の感染対策. 日本臨床スポーツ医学会誌：Vol. 29, No. 2, 139-149.

佐々木達也 (2021) 新型コロナウイルス禍における大学スポーツが受けた影響と城西大学の対応について城西大学経営紀要, Vol.17, 1-19.

上野佳代, 佐見由紀子 (2022) コロナ禍における保健体育科授業の学び - 中学生の視点からの考察 - 東京学芸大学紀要, 総合教育科学系, Vol.73, 593 - 606.

山田弥生子, 片上絵梨子, 守屋麻樹, 山口香, 土屋裕睦 (2022) COVID-19 拡大が高校運動部員のストレス反応に及ぼす影響とライフスキルの緩和効果, 心理学研究, Vol.93, No. 5, 1-11.

山下修平 (2020) ハイパフォーマンススポーツにおける新型コロナウイルス感染症の影響についての一考察. Journal of High Performance Sport 6, 101-108.